



社団法人  
長崎青年協会憲章

我々は會員の団結と

相互扶助の精神の基に

自己の建設し

會員の視聴を回り

もって地域社会の発展に

寄与する事を目的とする

NAGASAKI YOUNG GENERATION ASSOCIATION

# 社団法人 長崎青年協会

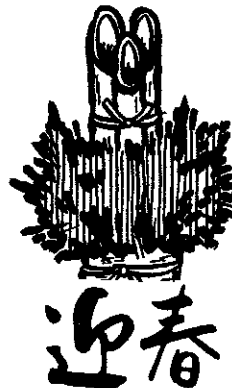
スローガン 本気で語らい実行し、そして新たな歴史を創りだそう



## 今月の行事

- |      |         |     |          |
|------|---------|-----|----------|
| 1月5日 | 事務局仕事始め | 17日 | 理事会      |
| 6日   | 理事会     | 23日 | 100%定時例会 |
|      |         | 27日 | 定例研修会    |

NYA press no.187  
January 1995



創立/昭和44年3月1日 社団法人設立/昭和59年3月23日

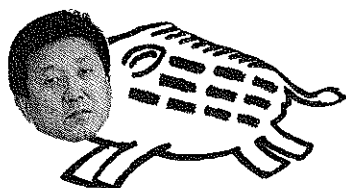
発行 長崎市魚の町7-7  
 (社)長崎青年協会  
 会長 桑田啓伍  
 編集 会報委員 会  
 広報委員長 猿渡卓

## 平成7年 新年を迎えて



## 新春に想う

会長 桑田 敬悟



新年明けましておめでとうございます。

月日が過ぎるのも早いもので平成6年度も残すところ3ヶ月となってしまいました。振り返ると、『本気で語らい実行し、そして新たな未来を造りだそう』をスローガンに、

内部研修や会員間の交流を充実させ、今までの事業の見直しを計りたく思っておりましたが、事業への再検討については、関係諸団体の要望も多く、簡単に変革するには事がむずかしかったように思います。ただ扉を開いただけかもしれませんが『考える』という点では、会員全体が意識をもったような気がします。

来年度は新ヶ江会長の下、よりよき青年協会の歩みを、一致和合して、2000年に向けて協力して行かれる事を期待しております。

さらに今年は亥年、青年協会も目標を定めたら、少々ブレキはあっても一直線につき進んで、それに対する批判があっても、良き評価として受け止められる『器』になってほしいと希望します。

自分が出来なかった事を願望するのは、少々気がひけますが、初春の風がすがすがしい時だからこそ申しそえておきたいと思えます。

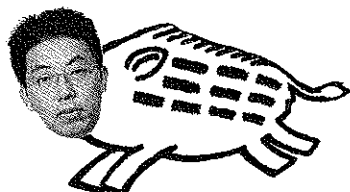
11年間の青年協会活動は、青春そのものでありました。個人的にも本当に多くの方々から力を頂きました。多くの友も出来ました。仕事の上では、たくさんの勉強をさせて頂きました。

また、今年一年、会員みなさんにはむりを申した事もありましたが、気持ち良く了解を頂き、無事9ヶ月が過ぎました。誠にありがとうございました。

残り3ヶ月間、多くの友と語り、私の得たすばらしい青年協会を、伝えられたらと思えます。共に明日にむかってがんばりましょう。

## 新年のあいさつ

副会長 新ヶ江 憲和



新年、明けましておめでとうございます。皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

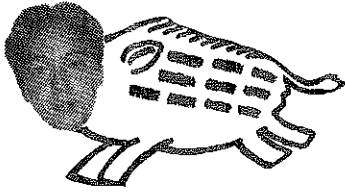
さて、今年度の活動を会員の皆様方の御協力で何とか順調に行っていました。とりわけ、7月に行なわれた

「ながさきみなとまつり」では地元青年団体の一つとして商工会議所青年部、青年会議所とジョイントで初めて取り組み、他団体との交流もでき、また多くを学ぶことができましたが、内部的には若干、考えさせられることがあったように思います。個人的にも副会長として会長の補佐が充分できなかったことを反省しております。

本年度も余すところあと3ヶ月になってまいりましたが、これから残された時間を内部の充実に努め、次年度につなげていければと思いますので会員の皆様方の御協力を宜しく願いたします。

最後になりましたが、この一年が皆様にとって良い年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

## 新年号に寄せて



副会長 田川俊幸

新年、明けましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新年をお迎えの事と、お慶び申し上げます。旧年中は、それぞれの事業に携われた委員会の皆様、並びに、ご協力下さったご家族の皆様には、大変お世話になり深く感謝いたします。

私ごと、昨年3月に「日ボ450周年草の根交流事業」に皆様の代表としてポルトガルへ訪問出来た事は、一生忘れ得ぬ思い出となりました。新たなる決意で臨んだ本年度当初に桑田会長より、今までとは性格が異なる「副会長」の組織的確立を命ぜられました。そのプレッシャーも全然気にせずズルズルとここまで来て反省しております。本年度も、あと3ヶ月、自分なりの努力を怠る事無く3月までやり遂げます。

今年も、会員の皆様のご健康とご活躍を期待し良い1年となりますようにお祈りいたします。

## 浅田五郎OB藍綬褒章を受賞

青年協会OB 浅田五郎



皆様、明けましておめでとうございます。昭和42年、私は29才で長崎市議会議員に当選し、地方政治家としてのスタートを切りましたが、青年協会での仲間作りのトレーニングが大変役に立ちました。その頃の長崎は、福岡市に次いで熊本市、鹿児島市と何事によらず競っていた時代でした。しかし今では大きく水をあけられております。

当時の長崎市は、長崎砂漠といわれ、断水の日々でした。今でも雨が降らないから我慢して下さいでは、政治不在と云われても仕方なく、水、ゴミ、汲み取り(下水)だけは、市民生活上欠かせることが出来ないだけに、市民へのサービスとして、行政の努力で、最善を尽くしておかなければならないのです。かつての長崎砂漠の反省が、行政の姿勢として20年後も生かされていないのが残念です。

一期市議を努め、33才で県議に当選させて戴き5期20年の永きにわたって、地方議員として努めてまいりました。この間、県議会副議長の要職を努める等、永い間市民と共に歩むという精神で、真面目に取り組んで来たことが、50代の若さで褒章をいただいたのではないかと、これまで育てていただいた長崎市民のみなさまに心より感謝いたしております。“がんばらんば長崎！愛と活力をふるさとへ”とNHK長崎支局のビルの正面に大きく書いた垂れ幕が掲げてあります。今の長崎の現状をとらえており、私共に何かを暗示しているようです。

長崎の現状を今のままでいいと思えば、それもよし、何とかしたい、変えたいと思えば何とかしなければならぬでしょう。果報は寝て待て、待てば海路の日和ありで、今の時代はいのでしょうか。

考え、行動し、自分の手でつかむ努力こそが大切だと思いますが、それが出来るのは今です。

自分自身を、気力、知力、体力共に若いと思っている時です。感動も感激も無くした時は、それは「若年寄」になっていることに気がつかなくてはなりません。

長崎青年協会のエリート集団の益々の活力と御発展を期待しております。

新しい年をすばらしい年にしようではありませんか、御多幸を祈っております。

## 1月100%例会への出席のお願い

総務室長 和田 正 信

例会委員長 板 倉 和 人

総務室3委員会では、今年度のスローガン「本気で語らい、実行し」を重んじ、本年度の残り3ヶ月を100%例会として、頑張っていきたいと思っております。例会に出席してこそ、協会のいいところがわかり、又、友も作れます。ぜひ、会員の皆様も御協力の程、よろしくお願いいたします。

## 「一緒につこう もちつき大会」行なわれる



12月4日(日)、青年協会恒例の「もちつき大会」が、午前9時30分より西彼杵郡野母崎町協岬公民館で行なわれました。今年は、障害を持った子供の父兄の方々で作られた「つみきの会」と会員の家族の方々、総勢約70名で35kgのもち米をつきました。「つみきの会」の子供達や会員の子供達がたのしい掛け声と共に、みんなで交互につきました。会員の人達は「もちつき」というより「根くらべ」さながらの気合いの入ったもちつきになりました。大人の方々が、もちをついている間に子供達を集めて大カルタ大会が行なわれました。カルタは80cm×60cmの大きなものにし、地域事業委員会のオリジナルの句で書かれています。ゲームが始まると子供達の目の色も変わり、句を読み終わる前にほとんどが取られていました。又、1つのカルタに、ねらいを定めじっとまっている子供もいました。最後に3枚以上取った子供達には景品が配りたいへん喜んでいました。ゲームが終了するころには、その間につかれたもちが入ったおじやが出来上がり、それをみんなでたのしく食べました。

又、残りのもちは、ゆとりもちにしたり、参加者全員に配られました。尚もちつき道具を貸して下さった会員の西口君、松尾俊二君ありがとうございました。又前日から準備をされた、地域事業委員会のみなさん誠にお疲れさまでした。



# 忘年懇親会 '94

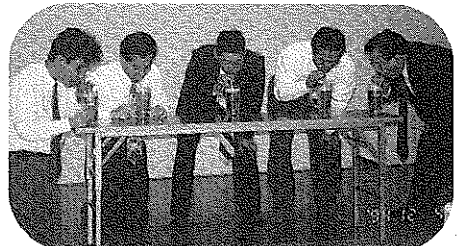
平成6年12月4日(日)

於：京華園

12月4日(日)、恒例の忘年懇親会が開催されました。現役会員とOB会長の三浦勝太OB、それに前年度卒業されたOB会員、総勢73名の出席がありました。

ミニ例会に引き続き、OB会長挨拶、OB紹介の後、田川副会長の乾杯の音頭で、忘年懇親会が始まりました。今年の忘年懇親会は、ゲーム大会と隠し芸大会の2部構成で行なわれ、1部のゲーム大会では、たいへんユニークなゲームが続き、中でも一番良かった?のは「ミスターレディ」で、これは女装をして誰が一番美しいかを競うゲームだったのですが、笑いと言じの中、選手の皆さん本当にお疲れ様でした。ちなみに一位は永田室長でした。

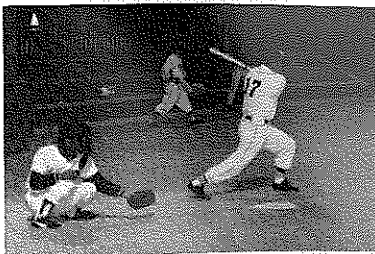
2部の隠し芸大会では、役員、総務系、会員系、事業系、企画系と5チームの中、見事1位になったのは、内容のおもしろさと練習の成果で役員チームの「白雪姫と7人の小人たち」をもじった「新々江姫と7人の理事者たち」でした。総合優勝は、やはり役員チーム、2位は会員系チームが入りました。最後に、来年度会長の新々江憲和君により万歳三唱があり、今年も笑いと言の忘年懇親会が終了しました。



## 善戦！ 青年協会野球部

11月29日(火)、長与町ふれあい広場グラウンドで、(社)青年協会野球部と(社)青年会議所野球部との親睦を兼ねた練習試合がナイター戦で行なわれました。試合はNYA野球部の精鋭8人プラス人数間に合わせ要員1人の9人丁度で望み、いざプレイボール。

まず1回目先攻のJC野球部を0点に押さえ、後攻、NYA野球部は快打で先取点2点を入れ、手出しは中々好調でした。が、次の回には逆転された上、以後、点差も開き、やはり急造野球部故の性かとも思いましたが、そこは野球部の日頃のチームワークでカバー。打たせて取り、走って点を入れると善戦をしました。寒空の中、両チームとも熱い攻防を繰り返し、結果10対8とJC野球部に敗れはしましたが、JC野球部からは、実質的には10対10の同点とまで言われました。両野球部は、お互いの好プレーを称えあい、この日の練習試合は終了しました。暖冬とはいえ、やはりナイター戦、夜の試合はとても寒いものですがJC野球部との試合は、それを弾き返す程のものでした。両野球部のナインの皆様、お疲れ様でした。



1回裏 先取点の1打

# 赤ちゃん誕生

# おめでとう！

- 城谷 <sup>しゅうへい</sup> 修平くん
- 第1子 長男
- 11月28日  
午前7時 出産
- 3,400g
- 男子が生まれて  
ホッとした。



パパ 城谷 富好氏

- 川原 <sup>あゆみ</sup> 歩実ちゃん
- 第1子 長女
- 12月3日  
午後1時 出産
- 3,830g
- 生まれてくるまで  
が長かった。

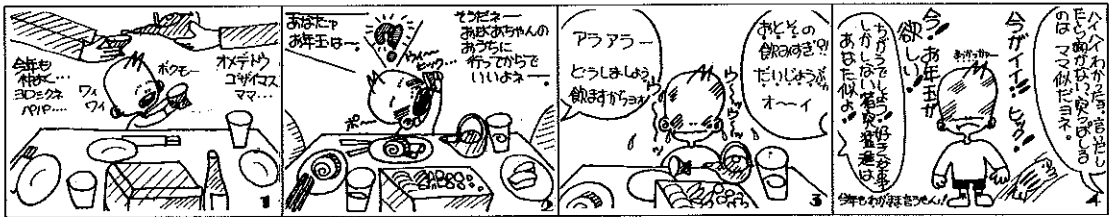


パパ 川原 哲也氏

## あけおめ BABY

City of Nagasaki

「年も新玉の春、わがはま行きまほ。



### ● 甦れ！歴史人物100選 (表紙説明) ●

明けましておめでとうございます。みなさまにおかれましては、新年、新たな希望に燃えていることと思います。幕末の長崎にも、さまざまな希望と決意を胸に数多くの若き志士達が集まりました。オランダ系アメリカ人フルベッキ父子を中心に集う若き志士達、そんな新年にふさわしい写真の紹介で今年も幕を開けたいと思います。

#### 人物紹介

ガイド・ヘルマン・フリドリッヒ・フルベッキ (1830 天保元年～1898 明治31)

ドイツ人を父に、オランダ人を母に生まれオランダ国籍であったフルベッキは、1852年嘉永5年アメリカに渡り宣教師となり、1859年安政6年長崎に渡り崇福寺上手の小寺に滞在した。当時の日本はまだキリスト教禁制であったため伝道を断念し、長崎奉行が設けた洋学所、後の済美館、佐賀藩の致遠館で英語を教えた。先月紹介した大隈重信や、副島種臣、後藤象二郎、西郷隆盛等も彼のもとで学んだ。長崎で約10年ほど活躍した後、明治新政府の招きで開成学校の教頭に就くとともに、教育、法律をはじめさまざまな分野で新政府に顧問として貢献した。特に、それまで日本が採っていたオランダ医学を廃し、ドイツ医学を採用すべきと答申したのも彼の功績と言われる。

#### 写真の解説

一説によるとこの写真は、1865年慶応元年の早春に西郷隆盛、勝海舟らの招集に応じ集まった志士達とフルベッキ父子を交えての記念写真とのことである。フルベッキを囲む記念写真はほかにも残っているが、彼が当時いかに重要な人物であったかがうかがわれる。参考までに、回りの志士たちの中には、これまでに紹介した坂本龍馬、陸奥宗光、勝海舟、大隈重信のほか西郷隆盛、大久保利道、小松带刀、五代友厚、江藤新平、伊藤博文、井上聞多、桂小五郎、高杉晋作、中岡慎太郎、大村益次郎らの名前がみられるが、真偽のほどは定かではない。しかし、彼らが一堂に会したかどうかは別にして、この長崎を訪れ何かを学び取っていったことは紛れもない事実であろう。